

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2017年度 助成者)

作成日 2017年 9月 18日

氏名 (フリガナ)	多田ちひろ (タダチヒロ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2017年8月14日 (月) ~ 8月19日 (土)
大学名	東京女子医科大学
学年	5年

今回の研修を振り返ると、非常に学びの多かったものでありました。1週間、過密なスケジュールでしたが、あっという間であり、またとても有意義でした。

私が今回の研修に応募した理由は、6年次の4月に米国への1ヶ月間の臨床留学を予定しており、その準備のために、医学英語・case presentation・米国の医療について学ぶ場を設けたいからでした。Case presentationについては、全く触れたことがありませんでしたが、午前中の座学の中でしっかりと教えて頂き、午後にUHの学生に問診をとり、presentationする練習を反復し、短い期間ながら最終的にはある程度の自信を持ってプレゼンできたと感じております。Presentationの型・問診のやり方などは、日本語でも同じなので、是非忘れずに活用していきたいです。医学英語は、学校のカリキュラムや事前の勉強で少し学んで行ったのですが、UHの学生と話すときには、やはりまだまだ勉強が足りないと感じました。学生への問診であったため、病態を理解できたものの、実際の臨床ではとても通用しないなと感じました。米国の医療についてとても興味深いと感じたのは、Medical Ethicsの授業でした。日本では、日本の法律に従いながら医療を行います。法の違う米国では、日本では選択できないことが選択肢に挙がることもあり、自分だったらどちらを選択するかなどと討論するのは、とても面白く、また勉強になりました。最終日に行われたMedical Ethicsの発表では、様々な意見を聞くことができました。日本だったら、法に触れる方の選択をした学生もおり、倫理的な考え方というのは、法律のことを考える前に一度自分で熟考していきたいと感じました。

また、今回様々な大学から医学生が参加されていましたが、皆さん英語力だけでなく、医学的知識・医学英語力も豊富で、さらに自ら積極的に海外の病院見学をしている学生もおり、大変刺激を受けました。1日の最後に、UHの学生と一緒に病態から診断名を考える時間あり、UHの学生も知識が豊富で、私の考え付かない診断名を挙げていたり、加えて積極性も非常に印象的でした。間違ってもいいから自分が思ったことを答えるという姿勢は、医学だけでなく勉学全体において重要だと感じました。

この研修を通し、UHの学生だけではなく、日本の医学生からも多くの刺激をいただきました。加えて、医学英語・臨床留学にむけての勉学により一層励もうと自分を奮い立たせることができました。学んだ積極性の大切さや、考え方などを活かしながら臨床留学に臨むつもりです。

最後になりましたが、今回の研修に携わった全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

